雑学書庫 知識の記録

紙のカードで夢見たインターネット、ムンダネウム（Mundaneum）

記事のURL

https://www.gklibrarykor.com/ja/article/10896/

PDFレイアウトのプレビュー - 本文の一部のみ

気になることがあると、私たちは検索窓に数文字を入れて、あっという間に答えを見つけます。ところが、コンピューターも電子通信網もなかった100年あまり前、世界中のすべての知識を一か所に集めて誰でも調べられるようにするという夢を、実際に推し進めた人々がいました。 ベルギーの二人の法律家は、本や新聞、報告書に散らばった情報を手のひらほどのカードに一枚ずつ書き写し、決められた番号に従って巨大な引き出し棚に差し込みました。カードは数十年で1,500万枚を超えるほど積み上がり、人々は手紙で質問を送って答えを受け取りました。この夢のすみかこそが「ムンダネウム（Mundaneum）」です。本資料では、ムンダネウムを築いた人々と彼らが抱いた考えから、カードと分類番号で組み立てられた知識の倉庫の仕組み、郵便で運営された質問回答サービス、そして衰退と再発見に至る物語までを順に見ていきます。 紙のカードで世界の知識を編もうとした夢 二人の法律家が夢見た知識の都市 ムンダネウムをつくったポール・オトレ（Paul Otlet）とアンリ・ラ・フォンテーヌ（Henri La Fontaine）は、ベルギー・ブリュッセルの法律家でした。二人は1891年に出会い、書誌学と国際協力という共通の関心で親しくなりました。（1）本の代わりにカードに収めるという発想オトレは1892年の論文で、本は情報を保存するには不便な器